

議員提出議案第20号

無戸籍者問題の解消を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成30年12月17日

提出者	12番	梅沢	とよかず	13番	伊藤	よしのり
	19番	かわごえ	誠一	22番	秋家	聡明
	23番	平田	みつよし	30番	小林	ひとし
	31番	中村	しんご	32番	三小田	准一
	33番	小山	たつや	34番	くぼ	洋子
	35番	黒柳	じょうじ	40番	大高	拓

葛飾区議会議長 筒井 たかひさ 殿

無戸籍者問題の解消を求める意見書

無戸籍者問題とは、子の出生の届出をしなければならない者が、何らかの事情で出生届を出さないために、戸籍がないまま暮らさざるを得ない子どもや成人がいるという問題である。

無戸籍者は、自らに何ら落ち度がないにもかかわらず、特例措置などでの救済ケースを除き、住民登録や選挙権の行使、運転免許やパスポートの取得、銀行口座の開設等ができないだけでなく、進学、就職、結婚といった場面でも不利益を被っており、無戸籍者問題は基本的人権にかかわる深刻な問題である。

また、無戸籍者は、同じ我が国の国民であるにもかかわらず、種々の生活上の不利益を被るだけでなく、自らが無戸籍であること自体で心の平穏を害されており、一刻も早い救済が必要である。

よって、本区議会は政府に対し、人権保護の観点からも、一刻も早い無戸籍者問題の解消に努めるとともに、無戸籍者が生活上の不利益を被ることのないよう、下記の事項に早急に取り組むことを強く求めるものである。

記

- 1 強制認知の申立てについては、その受付等の際に家庭裁判所の窓口で不適切な指導が

なされることのないよう是正するとともに、これに関する法務省や裁判所のホームページの記載を改め、その申立書の書式の改定等を進めること。

2 関係府省庁によるこれまでの類似の通知等により、無戸籍状態にあったとしても、一定の要件のもとで各種行政サービス等を受けることができるとされているが、そのことが自治体職員まで徹底されず、誤った案内がなされている事例が見受けられる。窓口担当者を含め、関係機関に対し無戸籍者問題の理解を促し、適切な対応を周知徹底すること。

3 嫡出否認の手続きに関する提訴権者の拡大や、出訴期間を延ばすよう見直すほか、民法第772条第1項の嫡出推定の例外規定を設けるなど、新たな無戸籍者を生み出さないための民法改正を検討すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。